

昔から人とモノが行き交う道。そこでは、数多の歴史や文化が生まれ、今に伝える文化財が現存しています。本シリーズでは街道を中心に、守山に残る文化財の魅力を紹介しします(隔月掲載)。

岡文化財保護課 ☎(582)1156 ☎(582)9441

中山道・加宿吉身宿(吉身一丁目)

## 水上安全の観音さん

中山道を守山から吉身方面に向かつてしばらく歩くと、道沿いに「帆柱観音」と刻まれた道標が目に入ります。それを目印に小道を入ると慈眼寺があります。

江戸時代に編さんされた『近江輿地志略』という近江国の地誌によれば、伝教大師最澄が、仏教の教えを求めて中国へ留学し、その帰国の途上、船の帆柱が折れるほどの暴風に遭遇、十一面観音に祈念したところたちまち波は穏やかになり、難を逃れたとされます。その後、最澄はこの時に折れた帆柱をもって十一面観音菩薩立像を彫って安置、これを本尊としたのが慈眼寺の始まりとされています。

このような由来から、水上の安全にまつわる福德の菩薩「帆柱観音」として親しまれ、地域の人々によってお守りされてきました。また水への信仰に深く関わるものとして、日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」折りと暮らした水遺産」の構成文化財の一つとして認定されています。

現在境内には、本堂と鐘撞堂がありますが、以前は薬師堂のほか如意輪堂や地藏堂などがあったと考えられます。また市指定文化財の薬師如来坐像(平安時代)、鬼瓦(安土桃山時代)などが伝来しており、栄えた本寺の歴史を物語っています。

※当寺の拝観を希望する場合は、文化財保護課までお問い合わせください。



薬師如来坐像

現在の本堂

道標

平成21年に現在の本堂が再建され、今年で10年を迎えます。これを機に、来年の1月17日の初観音の日には、秘仏本尊である十一面観音菩薩立像の厨子の扉が開かれる予定です。

### Let's Walking history

### 周辺のおすすめスポット



②白鳳〜平安時代の瓦や刻書土器も出土しており、『日本書紀』に記される醜泉を求めて人々が停泊した寺院の有力な候補地。

③『延喜式』に記載される古社。慈眼寺は当社の神宮寺であったとの説がある。当社の豊年踊りは、市指定無形民俗文化財。



②益須寺跡



①守山宿・まち家“うの家”



③馬路石邊神社

①第75代内閣総理大臣・宇野宗佑氏(名誉市民)の生家。平成24年に中山道守山宿の情報発信、地域の憩いの場としてオープンした。同じく名誉市民の森口華弘氏の友禅も展示されている。